令和7年度

# 仙台自生サクラソウ保全育成事業　報告書

早坂徹[1]・木村紗重子[2]

1　仙台市野草園　園長

2　仙台市野草園

概要：サクラソウはサクラソウ科に属する多年草である．サクラソウは宮城県が絶滅危惧植物をまとめた県レッドリスト2024に，絶滅危惧植物カテゴリーの中の「絶滅危惧I類CR+EN：絶滅の危機に瀕している種」として記載されている．野草園では栽培家から寄贈を受けたり，採集したりした宮城県を産地とするものを中心に野生種のサクラソウのコレクションがある．その貴重なコレクションの育成・保存と，絶滅危惧植物への理解や普及啓発を目的として平成25年度から「仙台自生サクラソウ保存育成事業」を開始した．令和6年度からは（公財）仙台市公園緑地協会の第5次中期経営計画における重点事業として，「圃場での栽培・管理」「さくらそう展の実施」「講習会（春）の実施」「講習会（秋）」「自生地植え戻し（野生復帰）」「情報発信」の6つの取り組みに分けて事業を行っている．

今年度は，年間を通して品種保存のための「圃場での栽培管理」，4月26日から5月6日に「さくらそう展」,4月29日に「さくらそうの育て方講習会」，11月22日に「さくらそう植替え実技講習会」と「園内で苗の植えつけ会」を，「自生地植え戻し（野生復帰）」として6月8日に自生地へ苗の植え戻し作業，「情報発信」を実施した．

## 1．栽培管理

今年度圃場で栽培している仙台市産サクラソウの品種数は，前年度同様23品種である．昨年新たに品種保存を行うことになった「[redacted]」「[redacted]」の2品種は，増殖が順調に進み12月の植替え時には保存鉢数を増やすことができた．

植替え作業後の仙台市産品種の栽培鉢数は表1のとおりである．前年度にプランター栽培の「越路」「[redacted]」「[redacted]」「[redacted]」で根腐れや作落ちが目立ったため対策としてゼオライトやパーライトを加えた用土で一年栽培した結果，「[redacted]」の3品種では株数に回復が見られたが，「越路」については性質の弱い品種ということもあってか株数が減少したため用土以外の対策を講じる必要があると考える（表2）．

そのほかに今年の夏は猛暑と少ない降水量だったこともあり栽培環境を保つのが難しかった（写真1，2，3）．次年度も気象条件に注意しながら苗を健全に保つように管理を行っていきたい．



写真1：生育状態の悪いプランター



写真2：生育状態のよいプランター



写真3：野生品種を栽培している区画（圃場）

表1：仙台市産サクラソウ種数と栽培鉢数

| 品種名 | 鉢数 | 品種名 | 鉢数 |
|---|---|---|---|
| [redacted] | 2 | [redacted] | 4 |
| 愛子野生 | 3 | [redacted] | 2 |
| 泉野生 | 3 | 下愛子 | 6 |
| [redacted] | 3 | 白花野生 | 4 |
| [redacted] | 3 | 仙台赤※1 | 5 |
| 釜房 | 6 | 坪沼 | 3 |
| 上愛子 | 3 | 坪沼細弁 | 3 |
| 上愛子樋田 | 6 | 南光台 | 6 |
| 上愛子鳴合 | 6 | [redacted] | 9<br>(10) |
| 国見 | 6 | [redacted] | 9<br>(8) |
| 国見酔白 | 6 | [redacted] | 10<br>(5) |
| 越路※1 | 16 | | |

※1 は増殖栽培しているためプランターも併用している種類.

※[redacted]の（）内数字は野生復帰のためのポット苗の数でひとつのポットに 3 株植えつけている.

表2：令和6年度と令和7年度の株数

| 品種名／年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
|---|---|---|
| [redacted] | 98 | 201 |
| [redacted] | 436 | 622 |
| [redacted] | 205 | 273 |
| 越路 | 216 | 102 |

※株（芽）の大きさは区別していない.

※1株とは株分けされて芽が1つついた状態の株を指す.

## 2. さくらそう展

毎年開花の時期に合わせて本園では「さくらそう展」を開催している. この展示は本園と民間団体の仙台さくらそう会が協力してそれぞれの栽培品を展示しているもので, 会期中は常時約 250 の鉢が飾られる（会期中の展示入れ替えあり）. 展示方法は伝統的な桜草花壇を用いたものと展示棚で行っている. また会場では仙台さくらそう会の会員がサクラソウ栽培の歴史や文化, 野生品種が現在置かれている状況や, サクラソウの栽培方法の解説などを行っている.

今年度の会期は4月26日から5月6日の11日間で, 展示期間中の来園者は2, 901名だった（写真4, 5）.





写真4, 5：さくらそう展の様子

## 3. 講習会（春）の実施

「さくらそうの育て方講習会」はさくらそう展の会期中の4月29日に毎年開催している. 観賞してもらうことを目的としているさくらそう展に対して, 育てて楽しむことでサクラソウへの関心や植物へ親しみの心を持ってもらうことを目的としている. 今年度は26名の参加者でリピーターと初参加の割合は半々だった. 講習内容は年間管理の方法をスライドや実演で解説し, 質疑応答を最後に受けるもので,

今回は特に冬の株分けと花後の増し土に重点を置いて講習を行った(写真6，7)．質疑応答では参加者から近年の猛暑による夏越し対策などの質問が挙がっていた．



写真6：スライドを使用しての解説



写真7：植替え作業の実演

## 4. 講習会(冬)の実施

サクラソウの植替えは，最高気温が15℃を下回ってから2月までが適期である．本園では適期が始まる11月に「さくらそう植替え実技講習会」を開催している．今年は11月22日に参加者13名で実施した．この講習は4月の座学と比べてより実践的なものとなっている．内容は本園で栽培管理している野生品種を教材として，「株分け」「植替え」の方法を実技で学ぶ形式を取る．講師がひとりひとりに丁寧に手順をアドバイスするため毎年好評である．参加者は全くの栽培初心者もいるが，4月の講習会やみどりの日にサクラソウ苗を貰って興味を持った方や，すでにサクラソウ栽培をしていて技術を磨きたい方が多い(写真8，9)．さくらそう展，春の講習会，冬の講習会とサイクルができることで本園のリピーターにもなってくれている．



写真8：講習の様子



写真9：ひとりひとりに教えて回る

## 5.自生地植え戻し(野生復帰)

野生復帰の取り組みは，本園と[redacted]が協力して実施している．活動場所は[redacted]が管理を委託されている[redacted]で，[redacted]から採集した「[redacted]」「[redacted]」「[redacted]」を本園で増殖したものを[redacted]と共に[redacted]に植え戻している．[redacted]は同じ[redacted]から採集されたものであるが，それぞれ花柱の長さや花の形に僅かずつ違いがある．

今年は5月25日を作業予定日としていたが雨天だったため，6月8日に作業を行った．植え戻しの苗は開花するほどまで充実したものを選んでいる(写真10)．これまで[redacted]の中のいくつかの場所に植え戻しを行ってきたが，今回は一番植え戻した苗の生育状態がよかった場所に追加する形を取り，[redacted]と[redacted]が9株，[redacted]が15株の計33株を植え戻した(写真11)．その場所では前年植えた苗が開花した後に若い果実をつけている様子も確認できた(写真12)．



写真10：植え戻す苗



写真11：作業の様子



写真12：果実をつけている前年植えた苗

## 6. 情報発信

本事業の情報発信として，園内にサクラソウの野生品種を植栽すること，講習会や展示会の際に事業紹介パネルを設置すること，みどりの日の苗の先着プレゼントを行っている．

植栽は仙台さくらそう会の協力を得て毎年行っており，今年度は11月22日に実施した（写真13）．園内への植栽は絶滅危惧種の紹介や，植物が健やかに育つには生育環境も守られなければならないという普及・啓発を目的としており，開花時期には本園のガイドボランティアがガイド参加者に解説を行っている．事業紹介のパネルは本事業を多くの来園者に知ってもらうことで，施設の価値を高めることにもつながっている（写真14）．みどりの日で配布した苗の数は247個だった．



写真13：園内での苗の植えつけ（苗出し作業）



写真14：事業紹介（4月講習会場）

## 7. まとめ

第5次中期経営計画で重点事業となっている本事業は，「展示・講習会・野生復帰・園内植栽・事業紹介」と年間をとおして様々な形をとって多彩に実施している．この事業がサクラソウの保全と訪れる人の自然への理解が深めるきっかけとなるよう次年度も取り組んでいきたい．